令和７年度豆類振興事業（試験研究助成費）の成果概要

④　課　題：インゲンマメモザイクウイルス高度抵抗性を持つ大納言小豆の育種母本の作出（6～8年度）
代表者：京都府農林水産技術センター生物資源研究センター主任研究員　鴨志田徹也

目　的

インゲンマメモザイクウイルス（以下、BCMV）Aタイプ及びA2タイプ・Bタイプに抵抗性を持ち、機械収穫適性の高い品種の特性を受け継ぐ育種母本を作出し、品種育成の足掛かりとする。併せて、府内におけるBCMV構成比率を調査し、将来のリスクを探る。

成　果

①小豆遺伝資源の交配

・機械収穫適性の高い品種候補「502-9」及び「665」（BCMV-Aタイプ抵抗性あり）とBCMV-A2タイプ・Bタイプ抵抗性系統「GB11」の正逆交配により令和6年度に育成したF_1・F_2世代を栽培・選抜し、F_3世代を採種した。

②BCMV各タイプの分布状況の確認

・府中北部の中丹地域の小豆ほ場13か所でBCMV感染の疑われる小豆葉を計190個体からサンプリングし、DAS-ELISA法によりBCMVの感染が確認された計110サンプルの内、30サンプルについてBCMV各タイプの構成比率について調査した。今年度の調査結果ではAタイプが17%、A2タイプが17%、Bタイプが67%であり、Bタイプが優占していると考えられた（表）。一方、府中部の南丹地域や府北部の丹後地域における過去の調査結果ではいずれもAタイプが優占しており、過去の調査結果と傾向が異なっていた（表）。これらのことから、中丹地域では南丹及び丹後地域と比べてBタイプの発生リスクが高い可能性が示唆された。

表　府内で採取されたBCMV各タイプの株数及び割合

サンプル採取年	サンプル採取地域	調査株数	Aタイプ		A2タイプ		Bタイプ	
			株数	割合(%)	株数	割合(%)	株数	割合(%)
R7年*	中丹	30	5	16.7	5	16.7	20	66.7
R6年	南丹	28	21	75	6	21.4	1	3.6
H27年**	丹後	9	9	100	0	0	0	0
H24年***	南丹	61	39	63.9	12	19.7	10	16.4

*R8年5月13日現在の調査結果
**小西ら(H27年)のデータをもとに作成
***静川(R1年)のデータをもとに作成